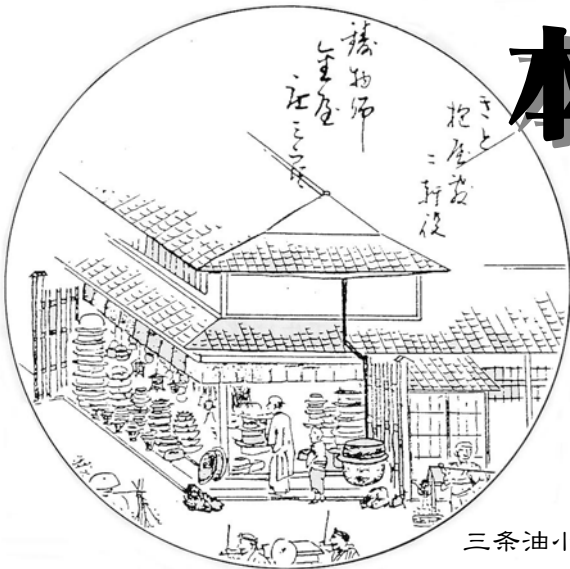


# 本能まちづくりニュース

第24号 平成16年10月1日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net  
URL http://www.honnoh.net



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## 建設進む新施設

もと本能校跡地工事現場では、新施設建設足場がどんどん高くなり、順調に工事が進んでいます。どのような建物になるのか、京都市の担当者にうかがいました。

Q1. 建物の構造及び概要は？

A. 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造。地下1階・地上5階建です。地下は機械室。1階部分が普通より少し高いです。建築面積は、約2,500㎡（元本能小学校は、校舎と講堂で約1,750㎡）延床面積は約8,900㎡（元本能小学校は約2,600㎡）となります。

Q2. どのような施設ですか？

A. 北棟の高齢者福祉施設は、5階建、延床面積約5,700㎡で、特別養護老人ホーム（定員90人）・ショートステイ（定員10人）・老人デイサービスセンター・在宅介護支援センターから構成されます。

南棟の高校教育施設は、4階建、延床面積約2,900㎡で、武道場及び教室等で構成されており、堀川高校の分室としての役割を担います。

北棟と南棟の間に辻子がもうけられ、油小路からグラウンドと小川通に通じます。屋間は自由に



建設が進む新施設

行き来できます。南北両棟は渡り廊下で結ばれます。

地元施設は北棟、高齢者福祉施設の1階北西部にできます。延床面積約300㎡。消防分団施設・会議室・和室・半月状のギャラリー等です。坪庭や格子・たたき床など、町家のイメージを取り入れた造りとなっています。

グラウンドは、敷地東南角、元の学校園や、自治会館・仮設会議室が建っているあたりにできます。約1,000㎡で、元本能小学校の校庭とほぼ同じくらいの広さです。南北にやや長い長方形で、テニスにも使用できます。グラウンドの管理は、堀川高校が行います。



工事現場の油小路からの俯瞰

Q3. いつごろ完成しますか？

A. 現在、北棟（5階建）は3階部分、南棟（4階建）は2階部分の建設中です。完成は、平成17年8月7

日の予定ですが、グラウンド及び地元施設の使用が可能になる時期については未定です。

Q4. 高齢者福祉施設の運営はどんな事業者がするのですか？施設の名称等についてはどうですか？

A. 高齢者福祉施設の運営は、京都福祉サービス

協会が行う予定です。施設の名称及び運営開始時期等はまだ決まっていません。

#### Q5. 高齢者福祉施設の特徴は？

A. 当特別養護老人ホームは、政令指定都市において公設の手法で整備する、初めての小規模生活単位型（全室個室・ユニットケア）特別養護老人ホームです。家庭的な雰囲気与生活していただけるよう、10名程度を、一まとまりで共用スペースを持った、1つのユニット\*としています。



熱心に聞き入る本能健康講座

☆7月31日に行われた本能自治連合会・社会福祉協議会主催「本能健康講座」では、このような高齢者福祉施設への入所等、介護保険による介護サービス

を受けるには、「要介護認定」が必要ですから、まず区役所の福祉部長寿社会課に「認定」申請をして下さい、とのことでした。

\*今までは多床室（例えば4人の大部屋）のつくりで、多床の場合は看護しやすく、コミュニケーションが考えられていました。しかし、高齢者生活調査研究が進み、大部屋だと各人がプライバシーを守るために逆に他人と背を向けて寝たり、会話を避ける傾向が生じる。個室にして最低限度のプライバシーを守り、自分の小さな生活の場を確保できるようにすると、かえって人との交流を求めて、自分のベッドから起き、食事は食堂で取り、共用リビングで過ごす時間が長くなり、また人の居室を訪問したりするようになって、要介護症状が改善する例があることがわかってきたそうです。本能新施設で取り入れたユニットケア方式は、10名程度の個室が共用部分（リビングやダイニング）を囲む形で配置され、小グループによる家庭的な雰囲気の中で一人一人の個性や生活リズムを大事にした介護ができるように配慮されたものです。ただし、全室個室にすると、面積が必要になる、ということです。（N村）

## 熱気あふれる 2004『本能夏まつり』

8月21日（土）、今年も本能公園一帯で『本能夏まつり』が開催されました。「土用の丑が2回ある年は暑さが厳しい」といわれるとおり今年も・・熱い毎日でした。けれどこの熱さを上回る子供たち・大人たちそしてスタッフたち一同の熱気あふれる夏まつりとなりました。

少し涼風を感じる午後4時過ぎ、公園中央に組まれた櫓から音頭が流されると、夏まつりの雰囲気が高まり、ゲームコーナーを皮切りに様々な企画が始まりました。子供たちは券を片手に、「あてもの」「ダーツ」など6種類のゲームに挑戦です。「どこからまわろか」とウロウロする子や、端から順番に臨んでいく子、それぞれもらった景品を見せ合ってニコニコ顔でした。（写真①②③）

5時開始の「味自慢」屋台は、公園東側の小川通に設営され「鮎の塩焼き」「焼きそば」などの焼き物系に始まって「みたらし団子」などのお菓子系、「カキ氷」「ジュース」の水物へと店が並びます。もちろん「ビール」も忘れてはいけません。前日から煮込まれたという「おでん」はとろとろで、味がよくしみておりました。（写真④⑤⑥）

恒例の抽選会は今回方式が変わり「空クジなし・その場で抽選」になりました。5時から8時の時間内に抽選場へこられた方に随時三角くじを引いていただきました。5等「あいだみつを」の『一生青春』のハンドタオル。自分自身の生き様を問いかける夜だったのでは？なお、抽選参加者は、昨年の1.3倍の328人。一戸建て59%、マンション41%の割合でした。（写真⑦⑧）

日が落ちて7時になると櫓の提灯に灯がともり盆踊りの始まりです。「炭坑節」が流れ、櫓の上では太鼓がなりだしました。続いて江州音頭ですが、これは少し難しい目の踊りですね。9時前までずっと太鼓を叩いていただき音頭が流れていましたが、見ている人が多かったようで・・。次回は「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々」の言葉のように、是非とも、踊りで汗を流しましょう。（写真⑨⑩）

全体に4時のスタート時刻から途切れなく人が来られて、皆さん思い思いに夏まつりを楽しんでおられました。ゲームコーナーや飲食屋台では予定時間前に完売する賑わい振りでした。

住んでいるところでこれだけ盛りだくさんの夏祭りが企画されるということはいいものです。午後9時、自治連合会岡山悟会長の挨拶で御開となりました。老若男女、夏の夜の思い出を胸に

2004年『本能夏まつり』は無事終了、来年は新施設のグランドにて更にパワーアップした本能まつりが開催されることを楽しみにしましょう。

## 本能夏まつりアルバム 2004 あんたが主役



①射的  
狙った獲物ははずさないぞ～



②コインおとし  
狙い通りにコインが落ちないよ～



③ダーツ  
小さい子には的が前にでました



④焼きそば  
もうちょっとまってや～



⑤ならぶ  
まだかな？屋台には長い列です



⑥一服  
今年は公園内にもテーブルが設置されました



⑦景品いろいろ  
おまちしていま～す



⑧くじ引き中  
何等でるかな？



⑨櫓  
櫓の上では太鼓がたたかれて・・



⑩Let's BON DANCE  
みんなで踊る

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。 <http://www.honnoh.net>

本能まちづくり委員会の  
**次回開催は**

平成16年11月1日(月)午後7時から  
場所 本能会議室 当日飛び入り歓迎!!

歩いて暮らせる街づくり まちなかを歩く日11月13日(土)～14日(日)に決定!!

染めのまち本能 公開工房開催!! みなさまのご協力をお願いします

◆◆◆◆◆ 詳しくはポスター、チラシ、回覧をご覧ください ◆◆◆◆◆

## 探訪 景観・まちづくり大学



景観・まちづくり大学の開催

8月24日、まちづくり情報発信セミナー「マンションと地域コミュニティ」が京都市景観・まちづくりセンター（ひと・まち交流館 京都 地下1階）で開かれました。

講師は京都府立大学助教授の宗田好史先生、ゲストとして本能まちづくり委員会の西嶋委員長、有隣学区まちづくり委員会・大田垣義夫氏、全国マンション管理組合連合会・谷垣千秋氏が招かれました。2時間あまりの講座の前半は、講師とゲストによる、現状報告や取り組みの発表、後半は受講者も交えた意見交換会。宗田先生からは、京都市における集合住宅（マンションを含む）激増の現状、家族構成や世帯の変化が報告され、また西嶋委員長は、『本能学区まちづくりのしおり』作成の経緯とマンション調査の結果報告。

「新しく本能学区にこられた方へ“welcome”の意思表示をしたいのです」と熱っぽく語りました。セミナーは定員（50名）を超える盛況ぶりで、京都府以外の受講者も多く見受けられました。意見交換会の場では活発な議論が繰り広げられ、マンション、コミュニティに対する関心の高さがうかがわれました。京都の都心部におけるマンション問題は、建設時の協定、分譲、管理体制、そして町内会とのつきあい方などさまざまな課題をかかえており、「今は共生に至るのがまちづくりへの道」という宗田先生のお話でした。このまちづくり情報発信セミナー「マンションと地域コミュニティ」は今回が1回目ですが、今後も続けて開催される予定ですので、みなさんも是非受講なさってください。（YN）

## 学生さん来訪

9月12日、埼玉大学経済学部社会環境設計学科3回15名が岩見良太郎教授とともに、来られました。



まずは最初にまち歩き

本能まちづくり委員会をホームページで知り、実際の活動の様子を聞きに来られました。2班に分かれてまち歩きをした後、本能会議室で学生さんが用意した、まちづくり活動に関する数々の質問に西嶋委員長・杉下副委員長、本もの推進会議から荒木泰博氏が答えるかたち

で進みました。いろいろな地域のまちづくりを勉強されているなかで、住民交流と伝統文化の発信を2つの柱として取り組んでいる本能まちづくり委員会の姿勢に、共感された様子でした。迎えた私達も、今までを振り返る機会となりました。

後日、学生さんからメールが寄せられました。



学生の質問に答える本能まちづくり委員会のスタッフ

**学生さんからのメール** 先日はお忙しい中沢山の皆様にお集まりいただき、本当にありがとうございました。皆様の生のお話を聞くことができ、本やホームページなどからは得られないものを感じることができ、大変貴重な経験をさせていただいたと思っております。

京都というと、新しいものを受け入れないというイメージがありますが、その点で言うと本能はいい意味で京都らしくない、むかしながらと今が共存する町であると感じました。そのような町にできるのは、本能の皆さんが本当に町を大切にしているからではないかと思えます。

これから私達はまちづくりについてさらに知識を深め、躍進していきたいと思えます。本能の皆様にも今の素敵な町を守り、ひとづくりを続けていってほしいと願います。

埼玉大学経済学部岩見研究室 成ヶ澤

## 編集後記

◎今年の夏まつりの抽選は「三角くじ」。古いも若きも幼きも、ちょっぴり期待をふくらませて、顔をほころばせながら箱の中に手を差し入れる —— まさに昔ながらの日本的情景でした。（YN）

◎様々な企画あふれる「本能夏まつり」でした。参加者の「楽しい！」という気持ちと、ボランティアの「楽しんでらおう」「自分たちも楽しもう」という気持ちでいっぱいひとときだったように思います。一人一人のこの思いが祭りのみならず、すべての土台となるのでしょうか。（あ）

◎健康講座や新施設の取材で、介護保険制度について考える機会を得ました。N村

◎夏まつりの写真を撮っていて、本能学区にこんなに大勢の子供たちがいたのかと、改めて子供たちの多さにびっくり。その子供たちの楽しそうな顔を見てさらに感動。やはり、子供が主役。OM